

## 題

## ■ 本文

今は昔、竹取の翁といふもの〔①〕ありけり〔②〕。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける〔③〕。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける〔④〕。あやしがりて〔⑤〕、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうて〔⑥〕ゐたり〔⑦〕。

## ■ 設問 (全20問)

- 冒頭の「今は昔」を現代語訳しなさい。また、これは物語・説話の書き出しによく使われる言い方だが、どのような働きをするか簡単に説明しなさい。
- 「竹取の翁といふもの」の「いふ」を、現代仮名遣い（ひらがな）に直して書きなさい。
- 傍線部①「もの」は、ここではどのような意味で使われているか。最も適切なものを次から選びなさい。  
ア 品物・道具    イ 人（人物）    ウ もののけ・霊    エ 理由・わけ
- 傍線部②「ありけり」を現代語訳しなさい。また、「けり」の助動詞としての意味（働き）を答えなさい。
- 「野山にまじりて竹を取りつつ」の「まじりて」の意味として最も適切なものを次から選びなさい。  
ア（野山に）分け入って    イ（人と）言い争って    ウ（竹を）かき混ぜて    エ（道に）迷って
- 「竹を取りつつ」の「つつ」は接続助詞である。ここでの意味として最も適切なものを次から選びなさい。  
ア ～してはいけない（禁止）    イ ～しながら／～しては（くり返し・継続）    ウ ～だけれども（逆接）    エ ～したいものだ（願望）
- 「よろづのことに使ひけり」の「よろづ」の意味を答えなさい。また、「よろづ」を現代仮名遣い（ひらがな）に直して書きなさい。
- 「名をば、さぬきの造となむいひける」の「ば」は、ある語が変化したものである。もとの語（一語）を答えなさい。
- 傍線部③「名をば、さぬきの造となむいひける」について、この一文に用いられている文法上のきまり（修辞法）の名称を答えなさい。また、「なむ」を受けて結びの語が「ける」となっているが、これは終止形か連体形か、答えなさい。
- 傍線部④「光る竹なむ一筋ありける」について、結びの語「ありける」は何形になっているか、活用形を答えなさい。また、なぜその形になっているのか理由を簡単に説明しなさい。
- 傍線部⑤「あやしがりて」の意味として最も適切なものを次から選びなさい。  
ア 恐ろしく思っ  
イ 不思議に思っ  
ウ みすばらしく思っ  
エ うれしく思っ

12. 「筒の中光りたり」「いとうつくしうてゐたり」の「たり」は同じ助動詞である。この「たり」の意味として最も適切なものを次から選びなさい。  
ア 過去　イ 完了・存続　ウ 打消　エ 使役
13. 「三寸ばかりなる人」とあるが、「三寸」とはおよそどれくらいの大きさか。最も近いものを次から選びなさい。  
ア 約3センチメートル　イ 約9センチメートル　ウ 約30センチメートル　エ 約90センチメートル
14. 「いとうつくしうてゐたり」の「いと」の意味を答えなさい。
15. 傍線部⑥「うつくしうて」を、ここでの意味に合うように現代語訳しなさい。
16. 傍線部⑥「うつくしうて」は、もとの形「うつくしくて」が音の変化を起こしたものである。この音変化の名称を答えなさい。
17. 傍線部⑦「ゐたり」を漢字で書くとどうなるか答えなさい。また、その意味を答えなさい。
18. 本文の内容について、次の問いに答えなさい。  
(1) 光る竹を見つけたのは誰か、本文中の言葉で答えなさい。  
(2) 竹の筒の中にいたのはどのようなものか。大きさ・様子がわかるように、本文に即して説明しなさい。
19. 【文学史】『竹取物語』について、次の問いに答えなさい。  
(1) 『源氏物語』の中で『竹取物語』を「物語の出で来はじめの○○」と評している。○○に入る語を答えなさい。  
(2) 『竹取物語』のように、現実にはありえない不思議な内容をもつ物語を何とというか。次から選びなさい。  
ア 歌物語　イ 伝奇物語　ウ 歴史物語　エ 軍記物語
20. 【文学史】『竹取物語』の作者と成立した時代について、次の問いに答えなさい。  
(1) 『竹取物語』の作者はどうなっているか。次から選びなさい。  
ア 紫式部　イ 清少納言　ウ 作者未詳（不明）　エ 紀貫之  
(2) 『竹取物語』が成立したと考えられている時代を次から選びなさい。  
ア 奈良時代　イ 平安時代（前期）　ウ 鎌倉時代　エ 江戸時代